

# つまずきポイント指導事例集の活用方法

## 個々の教員の授業改善に活用

「ひょうごつまずきポイント指導事例集」は、体系的な取組を通してつまずきを解消できるよう、各領域に見られるつまずきごとに事例を掲載しています。

「自分の今の授業を何とかしたい」というだけでなく、「児童がこれまでにどんなことにつまずいていたから今困っているのか」「今ここでつまずくと、学年が上がるにつれてどんなつまずきにつながるのか」ということも意識して活用することで、子ども達の確かな学力向上に結び付けることができます。

### 1 自分の学年に関する事例を確認します

この指導事例集では、学年からも、領域に見られるつまずきからも、事例を探ることができます。

同じ数ずつ①	同じ数ずつ配るなどの場面を理解すること	p.33
同じ数ずつ②	乗法や除法の乗除となる「同じ数ずつ」の意味を理解すること	p.49
かたちづくり	図形の位置や向きを変えて構成すること	p.63
計算のかみしり	問題文と解を対応させて、正しく算式に表すこと	p.77
ひき算（差）の意味	ちがいを求めるときの差となる数を理解すること	p.91
<b>【第2学年】</b>		
10000までの数	位ごとのまとまりを正しく理解すること	p.19
かけ算①	「1つ分の数」と「いくつ分の数」の関係を理解すること	p.35
かけ算②	積乗数と乗数の関係を理解すること	p.51
正方形、長方形、直角三角形	直角や辺の長さに着目して、図形の判断をすること	p.65
かけ算の問題作り	こと	p.79
式の読み取り（括弧）		p.93
<b>【第3学年】</b>		
かけ算の筆算	もとの	p.21
わり算		p.37
あまりのあるわり算①	あまりのあるわり算の意味を理解すること	p.39
あまりのあるわり算②	乗法と除法を関係付けて考えること	p.53

学年ごとの目次から探す



領域ごとに探す

### 2 つまずきの実態を確認します

**第1学年 数と計算①**  
100までのかずのけいさん

**つまずきの実態**  
十の位を1が10集まったまとまりとしてとらえられない。  
— こんがらまの数が 算られますか? —

問題：みかんを24こもっています。3こもらうと、なんこになりますか。

24、25、26、27って数えればわかるのに…。

同じ位を計算することの意味がわかっていない。

24+3=27になるのはわかるけど、どうしてそうなるの？

**単元の概要**

目標  
何十を10のいくつつとみて、計算の仕方を考えることができる。

内容  
・何十たす何十の計算  
・何十ひく何十の計算  
・何十何たす何の計算  
・何十何ひく何の計算

**学習内容の系統と各学年に見られるつまずき**

学年内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年 分数×分数	分数×分数の意味を理解して計算することができない。
第5学年 分数のたし算	通分をすることなど、異分母の加法や減法の意味が理解できない。
第5学年 通分	公倍数を用いて通分ができるが、その意味が理解できない。
第4学年 分数	単位分数と関連付けて真分数、仮分数の意味や大きさが理解できない。

24、25、26、27って数えればわかるのに…。

同じ位を計算することの意味がわかっていない。

具体的なつまずきの姿を参考にし、自分の学級の児童が、どのようなことに困っているのかを具体的な姿としてイメージしておくことで、必要な手立てを行うことができます。

**ここがポイント!**

### 3 目標や内容、学習内容の系統と各学年のつまずきの実態を確認します

**数と計算①**  
100までのかずのけいさん

**つまずきの実態**  
一人の児童が「十の位を1が10集まったままとりしてとらえられない。」

問題：みかんを24こもっています。3こもらうと、9人こになりますか。

24, 25, 26, 27で数えればわかるのに。

同じ位を計算することの意味がわかっていない。

24+3=27になのはわかんない。どうしてかあるの？

**単元の概要**

目標：十を10のいくつ分とみて、計算の仕方を考えることができる。

内容：
 

- 十と十の計算
- 十と十の計算
- 十と十の計算
- 十と十の計算

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学年(単元名)	つまずきの実態
第6学年 分数×分数	分数×分数の意味を理解して計算することができない。
第5学年 分数のたし算	通分することなど、異分母の加法や減法の意味が理解できない。
第4学年 通分	公倍数を用いて通分ができるが、その意味が理解できない。
第4学年 分数	単位分数と関連付けて真分数、仮分数の理解や大きさが理解できない。
第3学年 1けたをかけるかけ算の筆算	筆算の手順の意味を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。
第2学年 10000までの数	十進位取り記法について、位ごとのまとまりとして正しく理解できない。
第1学年 100までのかずのけいさん	十の位を1が10集まったままとりしてとらえられない。

目標・内容

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき  
※中学校数学の指導事例集に関連する内容が掲載されている領域のみ、小学校からの系統を示しています。

自分の学年の学習内容やつまずきが、前後の学年にどのようにつながっているかを意識することが大切です。

今のつまずきが、どの学年からつながっているのかを考えることで、前の学年の学習内容のワークシートを個別に用意するなど、必要な手立てを行うことができます。

ここがポイント!



### 4 つまずき解消に向けた手立てを確認します

**つまずき解消に向けた指導の工夫**

10集まった数え棒とばらばらの数え棒をそれぞれ複数用意し、数え棒で問題場面を表現し、十を10のまとまりとして考えることができるようにする。

**ここがポイント!**  
10集まった数え棒やばらばらの数え棒を用意し、問題場面を数え棒を使って表現させることで、10集まった数え棒を使った方がわかりやすいことに気付かせ、十を10のまとまりとして考えることができるようにする。

期待される児童の姿

24個から、100個ずついれる。

十を10のまとまりとして考えて、問題場面を数え棒で表すことができるようになる。

**つまずき解消に向けた指導の工夫**

数え棒を用いた操作と式を関連付けて説明する活動

10のまとまりを意識しながら計算の意味を考えられるようにする。

**ここがポイント!**  
数え棒を用いた操作と式を関連付けて説明させることで、10のまとまりと、10のまとまりを分けて考えるイメージをもって計算の意味を考え、理解を深められるようにする。

期待される児童の姿

24は10の2つと14で、そこに3をたします。100集まったまままで、7集めればから27になります。

10のまとまりを意識しながら、何の位は幾つ何の位の意味を考えられるようになる。

指導事例集では、児童が特につまずきやすい場面に焦点を当て、つまずき解消に向けた手立て、指導のポイント、期待される児童の姿などを紹介しています。

指導事例集に掲載している手立てを取り入れる際には、そのねらいが何か、その活動を通して、児童のどのような姿を目指すのかを考えることが大切です。

ここがポイント!



### 主体的・対話的で深い学びを通したつまずきの解消に向けて

新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びを通した授業改善が求められています。本指導事例集では、主体的・対話的で深い学びにつながる実践に、右に示すマークを付けています。詳細は103ページを参照して下さい。

★主体的な学びにつながる実践

★対話的な学びにつながる実践

★深い学びにつながる実践

# 学校全体の授業改善に活用

全国学力・学習状況調査や「ひょうごつまずき状況調査」等を活用し、学校全体のつまずきを把握することで、つまずき解消に向けた系統的な取組を行うことができ、学校全体の学力向上を図ることができます。

## 1 学校全体のつまずきを明らかにします

①全国学力・学習状況調査や「ひょうごつまずき状況調査」等を活用して、自校の児童につまずきが見られる単元等を明らかにします。

**ひょうごつまずき状況調査**

小・中・高の各学年・学年別の調査項目と結果集計のリンクが示されています。

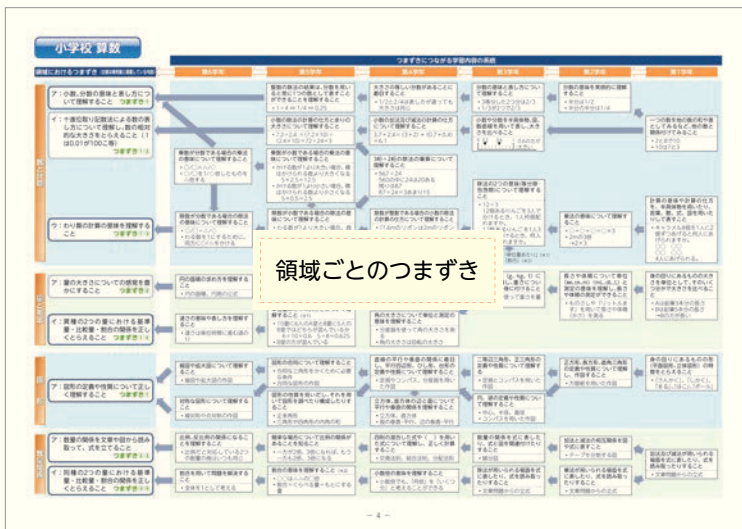
### 「ひょうごつまずき状況調査」とは

過去の全国学力・学習状況調査で特に課題のあった問題を中心に作成した調査です。

小学校5・6年、中学校全学年を対象としており、国語は、小・中学校とも同一の問題から、算数・数学は、複数の学年に共通の問題を取り入れて構成しています。

兵庫県教育委員会ホームページからは、調査問題や質問紙調査、解答用紙、解答類型などがダウンロードできます。

②課題の見られる単元等につながる、領域ごとのつまずきやつまずきポイントを確認します。



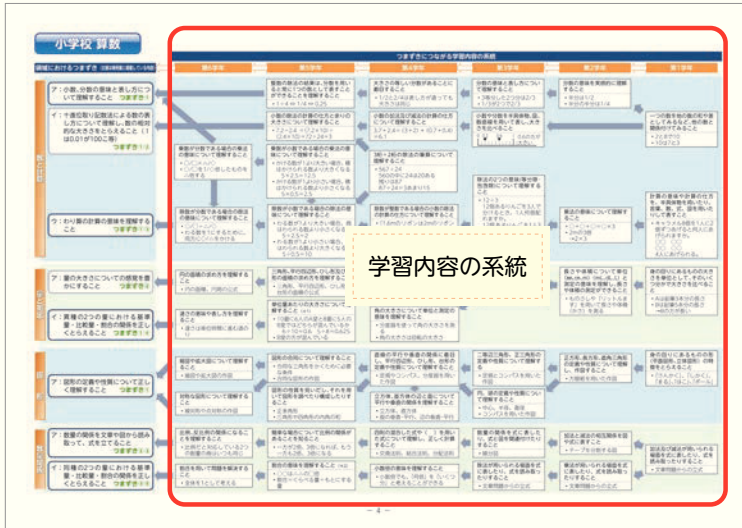
全国学力・学習状況調査や「ひょうごつまずき状況調査」を活用する際には、正答率だけでなく、解答類型等も分析し、具体的なつまずきを明らかにすることが大切です。





## 2 学年ごとのつまずきを明らかにします

「つまずきにつながる学習内容の系統 (p.4)」を参考に、自校の学年ごとのつまずきを明らかにします。



単元末のテストや小テスト、普段の授業の様子なども参考にしながら、各学年の具体的なつまずきを明らかにします。

ここがポイント!

## 3 つまずき解消に向けた系統的な指導計画を立てます

数と計算領域

分数の意味と表し方

学年	身に付けたい力の系統	各学年におけるつまずき
第6学年	分数の性質を用いて、分数の約分・通分ができること。	約分・通分が苦手な児童が多い。
第5学年	分数の性質を用いて、分数の約分・通分ができること。	約分・通分が苦手な児童が多い。
第4学年	1から10までの分数の性質を理解すること。	約分・通分が苦手な児童が多い。
第3学年	1から10までの分数の性質を理解すること。	約分・通分が苦手な児童が多い。
第2学年	1から10までの分数の性質を理解すること。	約分・通分が苦手な児童が多い。

数と計算①

100までの数のけいさん

つまずきの実態

問題: あみんも2人ももっています。3人もうと、なにもありません。

24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100

100までの数のけいさん

100までの数のけいさん

100までの数のけいさん

各領域の冒頭には、領域における、学年を通した取組の工夫や、身に付けさせたい力の系統が掲載されています。

各学年の事例には、具体的なつまずきの姿や学習内容の系統、つまずき解消に向けた指導のポイントが掲載されています。

教材や学習活動の工夫など、つまずき解消に向けた手立てについて、学校全体で共通理解を図り、系統的な指導を行うことが大切です。

ここがポイント!